



運動会を終えて

ホッとしている間もなく、3年生はチャレンジテストがあり、そして、来週には1学期期末テストが、迫っています。普段の授業や、ファイル、ワークなど日々の積み重ねがテストの結果につながります。前回のテストでの達成感はそれぞれではあると思いますが、しっかり勉強してテストにのぞみましょう。また、毎回しっかりと提出物は出していますか？テストはそれぞれの実力差が出てきますが、提出物は誰もが努力すればできる部分です。誰もができる部分だからこそ、ここをきっちりできないと、力が定着しない。一つの要因となります。

時間をうまく使えていますか？

中間テストが終わり、来週には期末テストが迫っています。結果を受けて、やり直し・再テストなどはおこなっていますか？テストが終わってホッとした気持ちで、忘れていませんか？

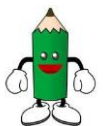
テストを終えて、大事なことは、「分析」することです。自分自身の得意なところ（解ける問題）、苦手なところ（解けない問題）をよく把握し、苦手なところを理解して解けるようにならないと、得点アップにはつながりません。苦手なところを解けるようになることが得点アップの近道なのです。でも…それが一番難しい！！苦手なことを習得することほど難しいものではありません。時間は必要です。だからこそ！期末テストまでのこの時期に、時間をかけて苦手なところに向き合ってみませんか。

「何をするためにも時間は見つからないだろう。時間が欲しければ自分で作ることだ。」という名言があります。「時間」というものは、意識しなければ、気づかぬうちに驚くほど時間が経っているものです。ということは、自分で1日1日の計画や見通しを立てて、どこに自分で使える時間を作れるかがとても大切になってきます。うまく時間を作り出し、やらなければならないことに向き合って、取り組んでください。

お知らせ



1. 期末テストは6月26日（水）～28日（金）です。
9教科です。定規・コンパスなどテストに必要なものはあらかじめ準備しておきましょう。
2. 6月24日（月）・25日（火）テスト前質問日を5時まで実施します。
各教科のわからないところを教えてもらえるチャンスです。利用してください。



！中間テストのときの学習の様子！

みんな積極的に取り組んでいました。今回もたくさんの参加を待っています。



裏面には学問のすすめ「国語科」を掲載しています

国語科～学習のポイント～

読む 書く 話す・聞く



一、読む

国語の基本はまず、「読む」ことから始まります。これは、どんなことに対しても言えることです。例えば、授業もまず教科書を「読む」ことから始まりますし、テストのときも問題を「読む」ことから始まります。他の教科を勉強するときにも必ず必要となることです。しっかりと文章を読む力をつけていきましょう。

しかし、ただ「読む」だけでは不十分です。書かれている内容を深く理解することが大切です。そのためには、例えば「なぜなのか?」「ここではどんな気持ちだったのだろうか?」「自分だったらこうするのになあ」など、言葉で表現されていることの奥にあるものを考えてみましょう。それが「読む」ということです。「読む」ことができれば、なぜか?ということ「考える」ということにつながり、さらに考えを「まとめる」ということつながっていきます。「考えながら読む」が習慣になるようにしましょう。

そうすると、毎日の朝読が大切ということに気づくと思います。学校生活に無駄なことはなく、すべてのことに意味があります。様々なことに真剣に取り組み充実した学校生活を送ることができるように頑張りましょう。

二、書く

授業ではノートをしっかりと丁寧にとりましょう。しかし、ただ黒板に書かれた文字を写すだけでは意味がありません。大切なのは、見返したときに復習ができるように、先生が言った言葉や付け足しの説明などを工夫して書き、自分だけの「オリジナルノート」を作り上げることです。毎回の授業を大切にしなければなりませんね。

また、自分の考えや意見をまとめることも大切です。自分の言葉で書く練習を授業でしましょう。

三、話す・聞く

国語は教科書を読んで、「オリジナルノート」を作るだけでいいというものではありません。「話す・聞く」ということも、とても大切な国語のテーマです。これは「伝える」力、コミュニケーションにつながってきます。相手に自分の思いや考えをしっかりと伝え、相手の思いや考えを聞くことが大切です。

そのためには、授業中に積極的に自分の思いや考えを発表してください。国語の授業中に間違いないではありません。授業中に発言した内容はしっかりと「あなたの答え」なんですから。そして、クラスメイトの発表をしっかりと聞きましょう。

また、グループ学習のときにも「話す・聞く」ことが大切です。分かりやすく伝えるためにはどう話せばよいか、教えてもらうときにはどんな聞き方をしなければならないか、考えながら学びあいきましょう。